

令和3年度事業報告

令和3年度は、令和3年3月の第20回理事会の議決を経た事業計画に基づき、講演会、シンポジウム、助成、国内の支援活動、広報及び橋梁の診断業務等を実施した。

1 実施事業等

1-1 研修等

(1) 道路橋点検士技術研修会

道路橋の点検を担う技術者の更なる技術力の向上や点検結果の精度・信頼性の確保を図るため、令和3年度の道路橋点検士技術研修会は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対策を図りながら、4回実施した。研修修了者は236名、平成6年度からの累計開催数は111回で、累計の研修修了者は15,166名となった。また、道路管理者を対象とした道路橋点検技術講習会を1回開催し、18名が受講した。

さらに、道路橋点検士委員会において道路橋点検士技術研修会と同等であると認定された他機関が実施する道路橋の点検に関する研修等の合格者等のうち、受験希望者に対し道路橋点検士補検定試験を1回実施し、1名が合格した。

(2) 道路橋点検士制度

登録状況は以下のとおり。

	登録者数		国土交通省登録資格
	令和3年度	累計	
道路橋点検士	238名	8,032名	平成27年1月登録 令和2年2月更新
道路橋点検士補	50名	1,252名	平成28年2月登録 令和3年2月更新

道路橋点検士及び道路橋点検士補の更新期限（認定された年度の翌年度から4年間）を迎える方を対象とする道路橋点検士更新講習会を開催した。令和3年度は平成26年度から29年度に登録された道路橋点検士及び平成27年度から29年度に登録された道路橋点検士補を対象とし1,026名が受講した。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、インターネットを活用したオンデマンド方式（講義視聴、演習問題、アンケート回答）にて実施した。

1-2 自主研究

(1) 橋梁保全に関する調査研究

AIを活用した道路橋メンテナンスの効率化に向け、平成30年度より実施して

いる共同研究に引き続き参画し、主に診断 AI について、熟練技術者の経験的な知識等についての体系化等を行い、診断する技術者が判断するものを支援する「橋梁診断 AI システム」の開発を行っている。

(2) 国際会議への参加

例年、国際会議等に職員を派遣し、橋梁技術等に関する意見交換、情報収集を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止や延期され、昨年度に引き続き参加を取り止めた。

(3) 賛助会員特別講演会の開催

平成 25 年度より賛助会員を対象として、橋梁調査会の取組みと時事テーマを取り上げた講演会を開催している。令和 3 年度は 4 月に予定した開催を 8 月に延期し、会場開催と賛助会員向けに録画配信というハイブリッド方式で、国立研究開発法人土木研究所理事長の西川和廣氏より「JBEC 検査業務から土研 CAESAR 診断 AI の構築へ」をテーマとして講演が行われた。

(4) 橋梁シンポジウム

令和 2 年度から発展的に改組した「橋梁シンポジウム」は、講演テーマを、「橋のこれから・新技術」とし、基調講演は国立大学法人京都大学インフラシステムマネジメント研究拠点ユニット特任教授の宮川豊章氏より「コンクリートとの挑戦」と題し行われた。さらに、建設コンサルタンツ協会、日本橋梁建設協会、プレストレスト・コンクリート建設業協会、国土技術政策総合研究所より講演が行われた。

開催方式は会場開催と録画配信のハイブリッド方式とし、会場参加者は 126 名、視聴希望者は 749 名となった。また、希望者 208 名へ CPD 登録のための受講証明書を発行した。

(5) 橋梁のメンテナンスに関するセミナー

賛助会員を対象として、橋梁のメンテナンスに関する情報提供とともに実務での課題を共有し、その理解と問題解決を図っていくことを目的としたセミナーを開催した。橋梁診断アドバイザーの松村英樹氏と樋野勝巳氏より「橋梁診断事例」について講話して頂いたうえで、質疑・ディスカッションを行った。

なお、開催方式は会場開催とオンライン配信のハイブリッド方式とし、会場参加者は 2 名、オンライン参加者は 77 名となった。また、希望者 38 名へ CPD 登録のための受講証明書を発行した。

(6) 助成

橋梁技術に関する研究開発に関して公募し、優秀計画と認められる 5 者に対し

て、当該研究開発に要する費用の一部を助成した。

- ・加熱式塗膜剥離を基本とする鋼橋の塗替えにおける簡易塗装の検討
- ・定期点検値を利用した橋梁のマクロ的劣化評価とその予測手法の開発
- ・塗膜クリープ解析法の開発と高力ボルト摩擦接合継手の性能評価への適用
- ・水の浸入による耐疲労性の低下を抑制する RC 床版断面の開発
- ・位相空間分析と機械学習を応用したコンクリート打音検査法の高度化の試み

(7) 寄附

京都大学に対し、橋梁・舗装マネジメント等の道路管理に関する政策の一環として、今後のより高度で効果的・効率的なアセットマネジメントの立案及び実施方策に関して研究を行う「道路アセットマネジメント政策（橋梁調査会）講座」への寄附を行った。

設置期間は平成31年4月1日から令和4年3月31日までの3箇年であり、令和3年度が最終年度となった。

1-3 広報

(1) 機関誌「J_BEC レポート」の刊行

機関誌「J_BEC レポート」Vol.17を刊行した。

(2) 各種国内会議・イベント等への協力

各地方整備局等が主催する建設技術展等のイベントに参加し、橋梁の点検・診断技術等に関する発表を行うとともに、展示を行った。

また、「建設技術フェア2021in中部」等への後援、「道路ふれあい月間」等への協賛を行った。

2 その他事業

2-1 調査研究業務

(1) 橋梁の診断業務

直轄国道の橋梁に対して、国土交通省の「道路橋定期点検要領（平成31年2月）」及び「橋梁定期点検要領（平成31年3月）」に基づき、現地にて状態の把握を行った上で対策区分の判定及び健全性の診断を行う橋梁診断業務を実施した。

(2) 橋梁工事技術審査支援業務

四国地方整備局が実施する総合評価方式による橋梁工事について、入札評価手続きに関する支援業務を実施した。

(3) 橋梁点検用ロボット開発導入支援業務

令和3年度新技術導入促進計画における技術テーマのうち「橋梁の点検支援技術」について、当該技術分野に精通する専門家等からなる技術検討委員会の設置・

運営等を行った。審議を通じて助言を得ながら技術の公募や確認（実証）を行うとともに、現場実装を促進するために実証実験を経た技術について点検支援技術性能カタログへの掲載を行った。

（４）国の道路橋維持管理施策に関する業務

道路メンテナンス年報の作成にかかる点検実施率、点検診断結果、判定区分Ⅳの施設の措置状況、さらに修繕実施状況等のデータ整理を実施した。

（５）地方公共団体の道路橋維持管理に関する支援業務

島根県等地方公共団体が実施している橋梁の維持管理全般を支援するために、橋梁の点検・診断、補修・補強に関する諸問題に対してアドバイスを実施した。

米子市が管理する橋梁について、橋梁構造保全の観点から管理者に助言を行った。

２－２ 全国道路施設点検データベース（道路橋）の構築業務

国等が保有する道路橋の点検データベースの整備及び管理運営を行う管理運営機関に指定されるとともに、データベースの構築を行った。

２－３ 人材育成支援業務

国土交通省及び地方公共団体の職員を対象とした橋梁の維持管理等に関する研修を支援した。

２－４ 出版

「道路橋の補修・補強計算例Ⅱ」他の図書の販売を行った。

３ その他

３－１ 会議の開催

（１）理事会

第21回理事会 令和3年6月4日（書面による決議）

決議事項：令和2年度事業報告及び決算(案)について

第10回定時評議員会の招集について

報告事項：職務執行状況の報告について

第22回理事会 令和3年6月24日（Web会議併用による決議）

決議事項：理事長及び専務理事の選定について

顧問の委嘱について

第23回理事会 令和4年3月17日（Web会議併用による決議）

決議事項：令和4年度事業計画及び予算について

報告事項：職務執行状況の報告について

(2) 評議員会

第10回評議員会 令和3年6月23日

決議事項：令和2年度決算（計算書類等）の承認について

評議員の選任について

理事及び監事の選任について

報告事項：令和2年度事業報告

事業報告に係る附属明細書

1. 事業報告の内容を補足する重要な事項
該当する事項はありません。